

肉専繁殖経営

(50頭規模)

立地・土地条件：北海道水田地帯
 経営形態：家族・複合
 経営タイプ：安定複合肉専用種繁殖経営

1 経営の特徴

- ① 地域の立地条件を活かして規模を拡大し、効率的なフリーバーン方式により、1頭当たり労働時間を低減し、生産性の向上、ゆとりを実現する経営。
- ② 1年1産の実現等効率的な飼養管理を図りつつ、他作物との複合により安定化を図る経営。
- ③ 飼料作付面積の拡大にあたっては、コントラクターの利用により、新たな投資及び飼料生産に係る労働時間を抑制。
- ④ 家畜排せつ物については、たい肥化处理を行い、経営内還元。

2 技術の特徴

- ① 連動スタンション利用により、繁殖めす牛の効率的な群管理を実施。
- ② 分娩間隔及び育成期間短縮のため、子牛は3ヶ月齢程度で早期離乳し、子牛のみの群として集中管理。
- ③ 家畜排せつ物は、フロントローダー等の機械により畜舎から搬出し、たい肥化施設で発酵を促進。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用： 飼料作付延べ面積 1.5ha 複合作目作付延べ面積 1ha ②繁殖めす牛： 50頭 販売子牛生産頭数： 43頭 ③外部化：飼料生産をコントラクターに委託
飼養方式	フリーバーン（連動スタンション利用）
牛	分娩間隔： 12.5ヶ月 初産月齢： 24.0ヶ月 出荷月齢： 8ヶ月 出荷時体重： 240kg
土・草	混播牧草 飼料自給率： 70% 粗飼料給与率： 80% たい肥利用方式：全量を自家消費
人	子牛1頭当たり生産コスト（現状との比較）： 314千円（73%） 経営体所得：673千円（本業596+複合77） 主たる従事者1人当たり所得：565千円（本業488+複合77） 労働時間（年間）： 総労働時間：2,790時間（本業2,500+複合290） 家族（主たる従事者数）：2,000時間（本業1,710+複合290） 家族（補助的従事者数）：790時間（本業790+複合0） 雇用労働者： 0人 1頭当たり飼養労働時間： 50時間

肉専繁殖経営 (100頭規模)

立地・土地条件：北海道畑作又は水田地帯
 経営形態：家族・専業
 経営タイプ：肉専用種繁殖経営

1 経営の特徴

- ① 地域の立地条件を活かして規模を拡大し、効率的な群飼方式により、1頭当たり労働時間を低減し、生産性の向上、ゆとりを実現する経営。
- ② 飼料作付面積の拡大にあたっては、コントラクターの利用により、新たな投資及び飼料生産に係る労働時間を抑制。
- ③ 家畜排せつ物については、たい肥化处理を行い、経営内還元。

2 技術の特徴

- ① 連動スタンション利用により、繁殖めす牛の効率的な群管理を実施。
- ② 分娩間隔及び育成期間短縮のため、子牛は3ヶ月齢程度で早期離乳し、子牛のみの群として集中管理。
- ③ 家畜排せつ物は、フロントローダー等の機械により畜舎から搬出し、たい肥化施設で発酵を促進。
- ④ ほ乳ロボットを導入等生産技術の高度化により生産コストを低減。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用： 飼料作付延べ面積 45ha ②繁殖めす牛： 100頭 販売子牛生産頭数： 88頭 ③外部化： 飼料生産をコントラクターに委託
飼養方式	フリーバーン（連動スタンション利用）
牛	分娩間隔： 12.5ヶ月 初産月齢： 23.5ヶ月 出荷月齢： 8ヶ月 出荷時体重： 240kg
土・草	混播牧草 飼料自給率： 60% 粗飼料給与率： 80% たい肥利用方法：全量を自家消費
人	子牛1頭あたり生産コスト（現状との比較）： 284千円（66%） 経営体所得：1,120千円 主たる従事者1人当たり所得：983千円 労働時間（年間） 総労働時間：3,000時間 家族（主たる従事者数）：1人、2,000時間 家族（補助的従事者数）：1人、1,000時間 雇用労働者数：0人 0時間 1頭当たり飼養労働時間：30時間

肉専繁殖経営 (30頭規模)

立地・土地条件：東北水田地帯
 経営形態：家族・複合
 経営タイプ：安定複合肉専用種繁殖経営

1 経営の特徴

- ① 地域の立地条件を活かして規模を拡大し、効率的な群飼方式により、1頭当たり労働時間を低減し、生産性の向上、ゆとりを実現する経営。
- ② 1年1産の実現等効率的な飼養管理を図りつつ、他作目との複合により安定化を図る経営。
- ③ 家畜排せつ物については、たい肥化处理を行い、経営内還元。

2 技術の特徴

- ① 分娩間隔及び育成期間短縮のため、子牛は3ヶ月齢程度で早期離乳し、子牛のみの群として集中管理。
- ② 家畜排せつ物は、フロントローダー等の機械により畜舎から搬出し、たい肥化施設で発酵を促進。
- ③ 未利用・低利用飼料資源であるイネを、ホールクロップサイレージとして活用。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用： 飼料作付延べ面積 1.6ha 複合作目作付延べ面積 0.4ha ②繁殖めす牛： 30頭 販売子牛生産頭数： 26頭
飼養方式	フリーバーン（連動スタンション利用）
牛	分娩間隔： 12.5ヶ月 初産月齢： 24.0ヶ月 出荷月齢： 8ヶ月 出荷時体重： 240kg
土・草	混播牧草・トウモロコシ 飼料自給率： 70% 粗飼料給与率： 80% たい肥利用方法：全量を自家消費
人	子牛1頭当たり生産コスト（現状との比較）： 319千円（74%） 経営体所得：669千円（本業304＋複合365） 主たる従事者1人当たり所得：559千円（本業194＋複合365） 労働時間（年間） 総労働時間：4,325時間（本業1,845＋複合2,480） 家族（主たる従事者数）：2,000時間（本業1,045＋複合955） 家族（補助的従事者数）：800時間（本業800＋複合0） 雇用労働者： 複合部門に1,525時間 1頭当たり飼養労働時間： 55時間

肉専繁殖経営 (80頭規模)

立地・土地条件：九州畑作又は水田地帯
 経営形態：家族・専業
 経営タイプ：肉専用種繁殖経営

1 経営の特徴

- ① 地域の立地条件を活かして規模を拡大し、効率的な群飼方式により、1頭当たり労働時間を低減し、生産性の向上、ゆとりを実現する経営。
- ② 飼料作付面積の拡大にあたっては、コントラクターの利用により、新たな投資及び飼料生産に係る労働時間を抑制。
- ③ 家畜排せつ物については、たい肥化处理を行い、経営内還元。

2 技術の特徴

- ① 連動スタンション利用により、繁殖めす牛の効率的な群管理を実施。
- ② 分娩間隔及び育成期間短縮のため、子牛は3ヶ月齢程度で早期離乳し、子牛のみの群として集中管理。
- ③ 家畜排せつ物は、フロントローダー等の機械により畜舎から搬出し、たい肥化施設で発酵を促進。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用： 飼料作付延べ面積 25ha ②繁殖めす牛： 80頭 販売子牛生産頭数： 69頭 ③外部化： 飼料生産をコントラクターに委託
飼養方式	フリーバーン（連動スタンション使用）
牛	分娩間隔： 12.5ヶ月 初産月齢： 24.0ヶ月 出荷月齢： 8ヶ月 出荷時体重： 240kg
土・草	イタリアンライグラス・スーダングラス 飼料自給率： 60% 粗飼料給与率： 80% たい肥利用方法：全量を自家消費
人	子牛1頭当たり生産コスト（現状との比較）： 308千円（71%） 経営体所得： 746万円 主たる従事者1人当たり所得：636万円 労働時間（年間） 総労働時間： 2,800時間 家族（主たる従事者数）： 1人、 2,000時間 家族（補助的従事者数）： 1人、 800時間 雇用労働者数： 0人、 0時間 1頭当たり飼養労働時間： 35時間

肉専繁殖経営 (200頭規模)

立地・土地条件：九州畑作又は水田地帯
 経営形態：協業法人・専業
 経営タイプ：肉専用種繁殖経営

1 経営の特徴

- ① 地域の立地条件を活かして規模を拡大し、効率的なフリーバーン方式により、1頭あたり労働時間を低減し、生産性の向上、ゆとりを実現する経営。
- ② 協業法人化(3戸)により経営の安定化・合理化するとともに、定期的な休日の確保等のゆとりを創出する経営。
- ③ 家畜排せつ物については、たい肥化处理を行い、経営内還元。

2 技術の特徴

- ① 連動スタンション利用により、繁殖めす牛の効率的な群管理を実施。
- ② 分娩間隔及び育成期間短縮のため、子牛は3か月齢程度で早期離乳し、子牛のみの群で集中管理。
- ③ 家畜排せつ物は、フロントローダー等の機械により畜舎から搬出し、たい肥化施設で発酵を促進。
- ④ ほ乳ロボットの導入等生産技術の高度化により生産コストを低減。

【経営等の指標】

経営概況	①土地利用： 飼料作付延べ面積 80ha ②繁殖めす牛： 200頭 販売子牛生産頭数： 176頭
飼養方式	フリーバーン (連動スタンション使用)
牛	分娩間隔： 12.5ヶ月 初産月齢： 23.5ヶ月 出荷月齢： 8ヶ月 出荷時体重： 240kg
土・草	イタリアンライグラス・スーダングラス 飼料自給率： 60% 粗飼料給与率： 80% たい肥利用方法：全量を自己消費
人	子牛1頭当たり生産コスト(現状との比較)： 279千円(65%) 経営体所得： 2,177千円 主たる従事者1人当たり所得： 683千円 労働時間(年間) 総労働時間： 7,457時間 家族(主たる従事者数)： 3人、6,000時間 家族(補助的従事者数)： 3人、1,200時間 雇用労働者： 257時間 1頭当たり飼養労働時間： 30時間